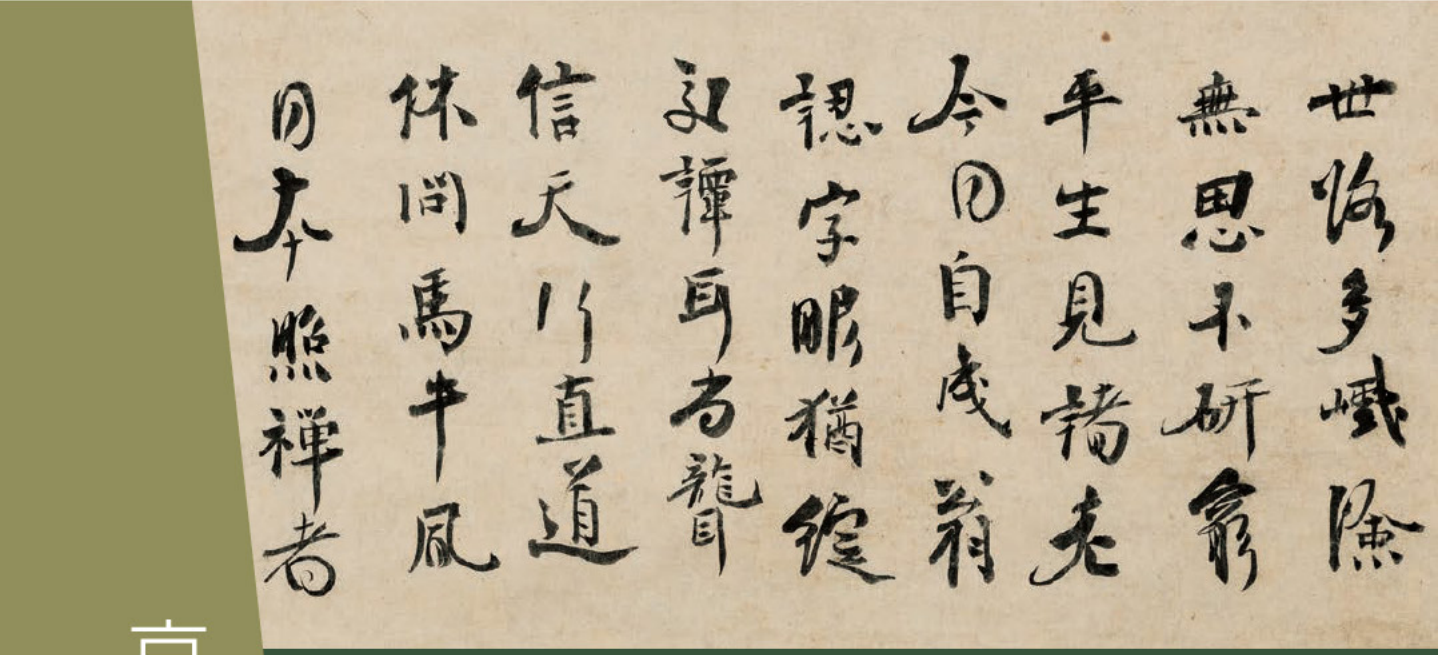


京都国立博物館だより

二〇二二年
一〇・一一・一二月号

KYOTO NATIONAL MUSEUM

2022 October to December, vol. 216

特別展
京に生きる文化
茶の湯

【予告】新春特集展示
卯づくし―干支を愛でる―

【予告】親鸞聖人生誕850年特別展
親鸞―生涯と名宝―

【特別展】

京に生きる文化
茶の湯

10月8日(土)～12月4日(日)
前期展示：10月8日(土)～11月6日(日)
後期展示：11月8日(火)～12月4日(日)
※会期中、一部の作品は記以外にも展示替を行います。

【平成知新館】

京都は国内外から多くの人が訪れる、国際観光都市です。訪れる人々を惹きつけるのは、京都で醸し出されてきた社寺建築や美術工芸などの歴史遺産、茶道や華道、能、狂言、舞踊などの伝統文化を中心とするものでしょう。なかでも茶道、茶の湯は、日本文化を象徴するものとして世界で認知されています。

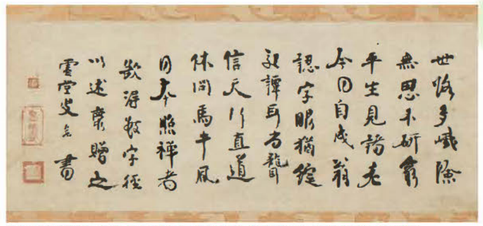
いまに繋がる茶の湯の原形は、平安時代末頃に中国からもたらされました。茶の湯は、鎌倉時代、南北朝時代、室町時代と時代が進むなかで徐々に和様化し、武家や公家、町衆へと広がりました。現在でも、茶道の家元や茶家の多くが京都を本拠としていることからもわかるように、京都はそうした茶の湯の歴史のなかで、中心的な役割を果たしてきました。

本展では、この地にゆかりのある各時代の名品を中心に、京の茶の湯文化を紹介します。連綿と守り継がれた歴史と、茶人たちの美意識の粋を感じていただければ幸いです。

（降矢哲男）

序章　茶の湯へのいざない

京都という地は、「茶の湯」という日本独自の文化が生み出されるまでの歴史のなかで、中心的な役割を果たしてきました。現在、私たちが親しんでいる茶の湯が、どのように根付き、時代とともに変化していったか、伝世の名品で辿ります。



国宝　虚堂智愚墨蹟　法語（破れ虚堂）東京国立博物館（画像提供：東京国立博物館）（前期展示）

清らかにわびた禅の精神を語った名僧・虚堂智愚の法語

唐物文琳茶入　酸漿文琳
ヤング開発株式会社（通期展示）

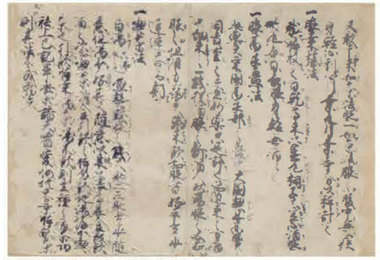
徳川家康が所持し、姫路酒井家に伝えられてきた大名物の茶入

国宝　大井戸茶碗　銘 喜左衛門
京都・孤篷庵（通期展示）

松平不昧が「天下の三井戸」と称した一碗

第一章　喫茶文化との出会い

喫茶文化は、奈良時代に中国から日本へと持ち込まれました。平安時代後期、現在の茶の湯につながる中国・宋代の点茶法による飲茶が始まったことにより、喫茶文化が大きな変化を遂げる様子と、その広がりを紹介します。



喫茶養生記　断簡　京都・建仁寺（通期展示）

建仁寺開山・栄西禅師が喫茶の風習を日本に伝えた書

第二章　唐物賞玩と会所の茶

禅宗寺院における規範としての茶が続けられる一方で、武家の会所では唐物を賞玩するなかで茶を楽しむ文化が生まれます。足利将軍家で用いられた品々は、後に大名物と呼ばれ珍重されました。また、茶の栽培の広がりにともない、社寺の門前の茶屋などで広く茶が楽しまれるようになる様子を紹介します。

織田信長が手にしていたと伝わる中国・南宋時代の禅僧の手による水墨画
重要文化財　遠浦帰帆図　伝 牧谿筆　京都国立博物館（後期展示）

足利将軍家旧蔵の名品

重要文化財　芙蓉花図　伝 趙昌筆
東京・常盤山文庫（後期展示）

平家物語に逸話が残る青磁の名品

重要文化財　青磁茶碗　銘 馬蝗絆　東京国立博物館
（画像提供：東京国立博物館）（通期展示）

第三章　わび茶の誕生と町衆文化

唐物道具がもてはやされるなか、日々の暮らしのなかにある道具を用いた、わびの精神を取り入れた茶が生み出されます。わび茶が生み出され、発展する過程は、多くの町衆の経済活動に支えられていました。

秋の京都洛北の高雄で茶を楽しむ人々の姿

国宝　観楓図屏風　狩野秀頼筆　東京国立博物館（画像提供：東京国立博物館）（10月8日～10月23日展示）

第四章　わび茶の発展と天下人

千利休がめざしたわび茶は、信長、秀吉をはじめとした天下人も魅了し、武将たちは、こぞって茶道具の収集を行いました。それは茶の湯が日本全国に広がりながら、独自の道具が生み出され、大きく形づくられていくことにも関係していきます。

秀吉愛用とされる天下の名碗

重要文化財　大井戸茶碗
銘 筒井筒（通期展示）

秀吉の三回忌に制作された肖像画

重要文化財　豊臣秀吉像　玄圃霊三・惟杏永哲賛　滋賀・西教寺（前期展示）

利休の存命中に描かれた唯一の肖像画

重要文化財　千利休像　伝 長谷川等伯筆・古溪宗陳賛　大阪・正木美術館（後期展示）

桃山茶陶の代表作

国宝　志野茶碗　銘 卯花墻
東京・三井記念美術館（通期展示）

歌舞伎小屋の前の茶屋に注目

重要文化財　阿国歌舞伎図屏風　京都国立博物館（後期展示）

第五章　茶の湯の広まり　大名、公家、僧侶、町人

利休や秀吉が活躍したち、武家、公家、僧侶、町人とそれぞれの立場において、茶の湯が広がっていきました。それぞれの茶の湯の形成過程や独自の茶道具などを紹介します。

萬福寺開山・隠元禅師愛用の茶器

錫泥茶罐　宜興窯　京都・萬福寺（通期展示）

野々村仁清の手による華やかな茶壺

重要文化財　色絵若松図茶壺
野々村仁清作　文化庁（通期展示）

第六章　多様化する喫茶文化　煎茶と製茶

江戸時代、中国との交流がなされるなか、新たな中国文化がもたらされました。煎茶もその一つです。また、江戸時代中期、京都府南部の宇治地域における製茶技術の向上によって、より良質な茶が作られるようになった様子などを紹介します。

第七章　近代の茶の湯　数寄者の茶と教育

近代になり、文明開化の名のもとに日本の伝統文化は大きな影響を受けました。茶の湯も例外ではなく、多くの茶道具が海外に流出しました。そのような時代背景のなか、近代数寄者たちの間では茶の湯が流行、学校教育にも茶の湯が導入されました。

江戸から現代、時代を超えて愛された茶碗

重要文化財　色絵鱗波文茶碗
野々村仁清作　京都・北村美術館（通期展示）

見どころピックアップ

参考画像：国宝《曜変天目》
（写真提供：株式会社便利堂）

《黄金の茶室》復元品　京都市蔵
（撮影：山木田時夫、提供：佐賀県立名護屋城博物館）

●四〇〇年、禅の心をもって守り伝えられてきた名碗、京都・龍光院所蔵の国宝「曜変天目」が10月8日(土)～23日(日)に展示されます。

●宋の皇帝・徽宗筆と伝わる宮廷絵画の傑作、国宝「桃鳩図」が11月3日(木)～6日(日)の4日間、期間限定で公開されます。

●豊臣秀吉の「黄金の茶室」と千利休の「わびの茶室」を復元展示。

◆夜間開館のお知らせ◆

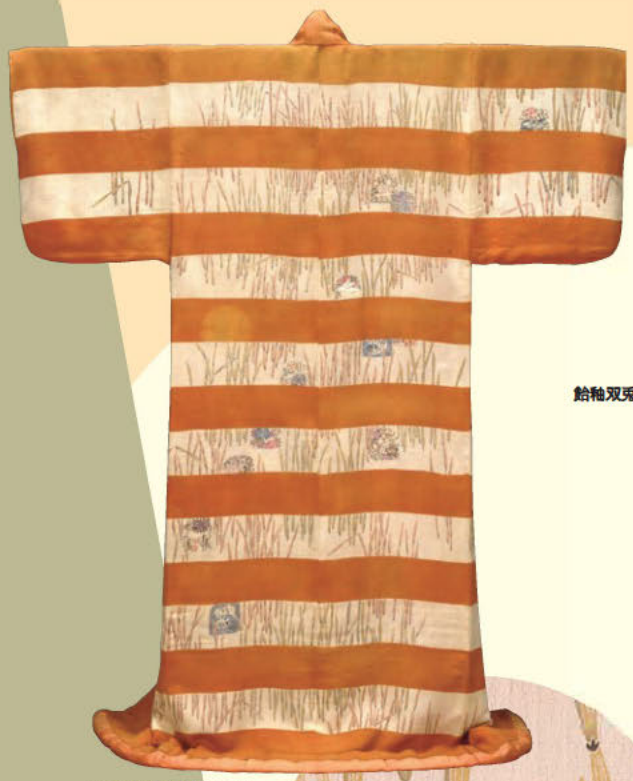
特別展「京に生きる文化　茶の湯」の開催期間（10月8日(土)～12月4日(日)）の金・土曜日は、午後8時まで開館します（入館は午後7時30分まで）。展覧会をゆっくりとご観覧いただいた後は、庭園のライトアップもお楽しみいただけます。ぜひご来館ください。

〈予告〉【新春特集展示】

卯づくし
―干支を愛でる―

令和5年1月2日(月・休)～1月29日(日)
【平成知新館　1F―2】

飴釉双兎炉蓋　仁阿弥道八作
京都・正伝永源院



木賊花兎に段文様小袖
京都国立博物館

来年の干支は卯（兎）です。長い耳と、ふわふわの毛並みを持つ兎は、とてもかわいい動物ですね。昔の人も同じように、兎を「かわいい」と思ったのでしょうか？

実は昔の美術の中には、目つきの鋭い、あまり「かわいくない」兎もたくさん登場します。どうやら、昔の人と今の私たちでは、兎のイメージは少し違うようです。

みなさんは、夜空に浮かぶ月の模様に、兎の姿を探したことがありますか？「月には兎がすんでいる」というお話が、中国に古くからあり、日本でも兎は月と一緒によく描かれました。仏教の古いお話では、「自分から火の中に飛び込んだ兎を、帝釈天が哀れに思って月に送った」と語られます。

また兎は、秋の草ともよく一緒に描かれます。これは、月が特に美しい「秋」と、月にいると考えられた「兎」が結び付けられたからです。連想ゲームのように、兎は様々なものと結び付けられて、表現されてきました。

この展示では、日本や中国の美術の中に表わされた、いろいろな兎をご紹介します。かわいいだけじゃない、兎の姿を探しに、ぜひ博物館に遊びに来てください。

（水谷亜希）

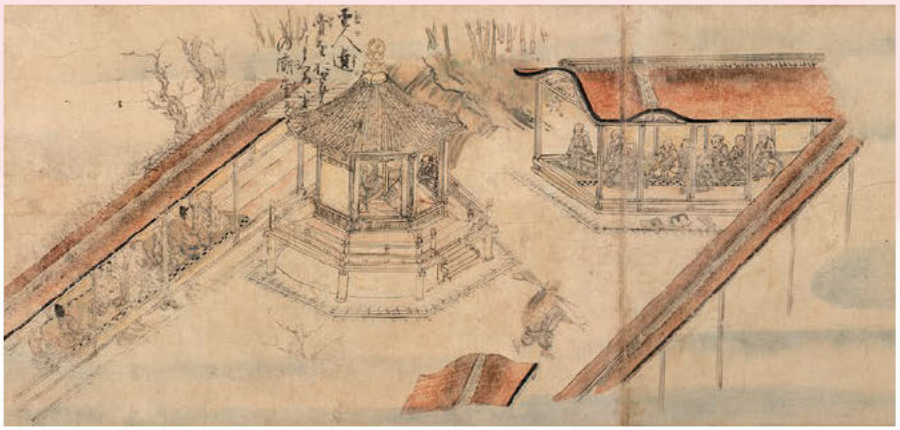
月兎蒔絵象嵌盆　破笠銘

兎図扇面　元久印

作品を見るのが楽しくなるワークシート（小学校低学年～）

やさしい解説文（小学校高学年～）

二〇二三年の「干支を愛でる」もファミリー向け！



重要文化財　善信聖人親鸞伝絵（高田本）　巻五（部分）
三重・専修寺（4月25日～5月21日展示）

国宝　親鸞聖人影像（安城御影副本）
京都・西本願寺（3月25日～4月2日展示）

〈予告〉

親鸞聖人生誕850年特別展

親鸞——生涯と名宝

令和5年3月25日（土）～5月21日（日）

※会期中、一部の作品は展示替を行います。

【平成知新館】

二〇二三年は浄土真宗を開いた親鸞聖人（一一七三～一二六二）の生誕八五〇年にあたります。親鸞は京都に生まれ、九歳で出家して比叡山で修行に励みますが、二十九歳で山を下り、法然上人の弟子となります。そこですべての人が平等に救われるという阿弥陀仏の本願念仏の教えに出遇うも、法然教団は弾圧を受け、親鸞も罪人として還俗させられ越後に流罪となります。

その後、罪が赦された親鸞は、関東へ赴き長く布教に励み、やがて京都へと戻り、晩年まで主著『顕浄土真実教行証文類』（教行信証）や「和讃」など多くの著作の執筆や推敲を重ねました。その九十年の生涯と教えは、今も多くの人を魅了して止みません。本展覧会は親鸞の求道と伝道の生涯を、自筆の名号・著作・手紙をはじめ、彫像・影像・絵巻など浄土真宗各派の寺院が所蔵する法物を一堂に集め紹介します。

（上杉智英）

国宝　教行信証（坂東本）親鸞筆
京都・東本願寺（通期展示＜冊替あり＞）

桜花図／松・藤花図のうち桜花図　望月玉泉筆　京都・東本願寺（通期展示＜面替あり＞）

よみもの

琉球王の装束

京都国立博物館企画室長兼工芸室長　山川　曉

現在の沖縄県一帯は、かつて琉球王国という独立国家であった。一四二九年、沖縄本島に分立していた三国を尚巴志が統一したことによって誕生した王国は、第一尚氏から第二尚氏へと曲折を経つつ王統を継承し、明治時代、琉球処分によって沖縄県として日本国に編入されるまで存在した。

本年は第二次世界大戦後アメリカの統治下に置かれた沖縄が、本土に復帰して五〇年という節目の年。これを記念して、東京国立博物館と九州国立博物館では、特別展「琉球」が開催された。その会場に展示されていたのが、尚王家に伝来した宮廷装束、玉冠と唐衣裳である。二〇一七年に当館で開催した特別展「国宝」においても展示させて頂いた作品なので、ご記憶の方もあるかもしれない。

中国大陸と日本列島の中間に位置する地理的特性から海上交易の中継地として繁栄した琉球王国は、その最初期から中国へ朝貢し、始めは明王朝と、王朝交代後は清王朝との間に、形式的ではあるものの君臣の契りを結んでいた。これを冊封関係という。そのため、新たな王が即位する際には中国へ使者を送り、王位の継承を認知してもらう手続きを踏む必要があった。そして新王の即位にあたっては、中国から使者が来琉し、琉球王に封じるとの皇帝勅諭とともに中国の宮廷装束をもたらすのが慣例となっていた。

それでは、琉球展の会場に展示されていた玉冠と唐衣裳は中国から下賜された宮廷装束なのかというと――これがなかなか複雑な性格を有している。

確かに唐衣裳の生地は清朝から拝領した蟒緞の反物であり、その点では清朝の宮廷衣料には違いない。しかし、その仕立ては映画「ラストエンペラー」などでおなじみの清朝の宮廷装束、いわゆる龍袍とは異なり、明朝の宮廷装束のうち「皮弁服」と呼ばれる形式にならって製作されたものである。玉冠と呼ばれている冠も、本来はこの皮弁服にあわせてのみ身に着ける被り物で、明朝においては皮弁冠と称されたもの。つまり、清朝の反物を明朝風の宮廷装束に仕立て、琉球王は着用し続けていたのである。

しかしそれも故なきことではない。明朝にあっては、琉球王には皮弁服一式と常服一式が、すでに仕立てられた状態で下賜された。ところが清朝では、反物の頒賜であったことが、勅諭の記載から明らかにできる。つまり、清朝に入ってからは、唐衣裳の仕立ては琉球国内で行われていた。基本的に冊封した周縁国への清朝の支配は緩やかであり、清朝の宮廷装束が押し付けられることはなかったのである。

琉球王の宮廷装束について物語る作例は極めて少ない。かつて尚王家が所蔵していたという歴代の琉球王の肖像画「御後絵」には、宮廷装束を身に着けて正装した王の姿が描かれていたが、それらはすべて沖縄戦で失われてしまった。今は戦前に撮影されたモノクローム写真からその面影を知ることしかできない。

沖縄本土復帰五〇年という本年、かつて海上に栄えた王国の姿を偲ぶとともに、玉冠と唐衣裳を通して、中国の風俗を取り入れつつ独自の美意識と価値観を育んだ琉球人のこころへ、深く思いを致したい。

【ミュージアムパートナー一覧】※令和4年9月末現在

京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

【ゴールド】土屋 和之
株式会社 SCREEN ホールディングス
株式会社 俄
NISSHA 株式会社
【シルバー】有限会社 竹内美術店
学校法人 二本松学院
【ブロンズ】原田清朗

【キャンパスメンバーズ】※令和4年9月末現在

「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などさまざまな特典を提供しています。

学校法人　瓜生山学園／追手門学院大学
国立大学法人　大阪大学／大阪大谷大学／
大谷大学／学校法人　大手前学園／
学校法人　関西大学／学校法人　関西学院／
国立大学法人　京都大学／
学校法人　京都外国語大学／
国立大学法人　京都工芸繊維大学／
学校法人　京都産業大学／
学校法人　京都女子学園／京都市立芸術大学／
京都精華大学／京都先端科学大学／
京都橘大学／京都府立大学／近畿大学／
国立大学法人　滋賀大学／四天王寺大学／
就実大学／成安造形大学／
学校法人　大覚寺学園／帝塚山大学／
学校法人　同志社／奈良大学／奈良女子大学／
国立大学法人　奈良先端科学技術大学院大学／
学校法人　二本松学院／花園大学／佛教大学／
学校法人　立命館／龍谷大学

【寄附】

京都国立博物館では文化財とそれを守り伝えてきた先人の想いを次の一〇〇〇年へと繋いでいくため、広く寄附を募っております。このたび、左記より寄附をいただきました。寄附の趣旨を踏まえ、大切に活用させていただきます。

株式会社エッジコーポレーション

表紙：国宝　虚堂智愚墨蹟　法語（破れ虚堂）（部分）東京国立博物館（画像提供：東京国立博物館）（前期展示）／唐物文琳茶入　酸漿文琳　ヤング開発株式会社（通期展示）／
国宝　大井戸茶碗　銘 喜左衛門　京都・孤篷庵（通期展示）／国宝　観楓図屏風　狩野秀頼筆（部分）　東京国立博物館（画像提供：東京国立博物館）（10月8日～10月23日展示）

【ご来館くださる皆様へ】

当館では、新型コロナウイルスの感染拡大予防のための取り組みを行っております。安心して博物館をお楽しみいただける環境維持のため、マスクの着用、検温など、皆様のご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

講座・イベント

《特別展「京に生きる文化 茶の湯」記念講演会》

10月15日（土）「利休の懐石」
京都府立大学客員教授、茶道資料館顧問 筒井紘一 氏

10月22日（土）「京に生きる文化 茶の湯―歴史とその背景―」
京都国立博物館調査・国際連携室長 降矢哲男

10月29日（土）「日本の茶文化における中国絵画受容」
京都国立博物館研究員 森橋なつみ

11月 5日（土）「京都における数寄者と茶の湯」
野村美術館館長 谷 晃 氏

11月12日（土）「天下人と茶の湯」
國學院大學兼任講師 竹本千鶴 氏

11月19日（土）「京都における公家と茶の湯―そのはじまりと展開―」
湯木美術館理事 谷端昭夫 氏

12月 3日（土）「中世の文書と典籍にみる「茶」」
京都国立博物館列品管理室長兼美術室長 羽田 聡

【時間】13時30分～15時 【会場】平成知新館 講堂
【定員】各100名 ※抽選による座席指定制。
【料金】聴講無料（ただし、講演会当日の本展観覧券が必要）

【応募方法】はがきかファクス（06-6366-2370）に、代表者の郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号と同伴者（1名まで）の氏名、年齢、参加希望日を書いて開催日の1か月前までに「〒530-8551（住所不要）読売新聞大阪本社文化事業部『茶の湯展』講演会係」へご応募ください。展覧会公式サイト（https://tsumugu.yomiuri.co.jp/chanoyu2022/）からもお申し込みいただけます。
※はがき1枚につき1講演会のお申し込みとなります。応募多数の場合は抽選となります。当選された方には、開催日の2週間前までに参加証をお送りします。
※聴講の際は当日の観覧券が必要になります。開始時間前までにご入館いただき、講堂入口で参加証をご提示ください。
※お預かりした個人情報は、本展記念講演会の連絡のみに使用します。

《京都・らくご博物館【秋】～錦秋寄席～ vol.64》

【日時】11月18日（金）18時30分開演（18時開場）
【会場】平成知新館 講堂
【出演】桂米舞 桂慶治朗 桂團治郎 ＜中入＞ 桂米輝 桂米團治
【入場料】3200円（キャンパスメンバーズは学生証提示により2600円）
※全席指定、特別展「京に生きる文化 茶の湯」100円引優待付
※チケットは9月24日（土）10時～11月18日（金）17時まで、ローソンチケット（Lコード：52532）にて販売。座席選択は9月25日（日）0時から可能です。

これからの展覧会

◆新春特集展示 **卯づくし―干支を愛でる―**
令和5年（2023）1月2日（月・休）～1月29日（日）

◆特集展示 **雛まつりと人形**
令和5年（2023）2月4日（土）～3月5日（日）

◆親鸞聖人生誕850年 特別展 **親鸞―生涯と名宝**
令和5年（2023）3月25日（土）～5月21日（日）

新型コロナウィルス感染症予防、拡大防止のため、展覧会やイベントの中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいますようお願いいたします。

◆ 名品ギャラリーの休止予定 ◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー休止期間：9月13日（火）～10月6日（木）
12月6日（火）～12月25日（日）
※名品ギャラリー休止期間中は庭園のみ開館となります。

ご利用案内

［開館時間］<9月13日～10月6日>9：30～17：00
<10月8日～12月4日> 9：00～17：30
（金・土曜日は20：00まで開館）
<12月6日～12月25日> 9：30～17：00
＊入館は各閉館の30分前まで

［観覧料］【庭園のみ開館期間】
<9月13日～10月6日><12月6日～12月25日>
一般300円、大学生150円
＊高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料（要証明）。
＊キャンパスメンバーズ（含教職員）は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。
＊有料（一般のみ）にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がつきます。

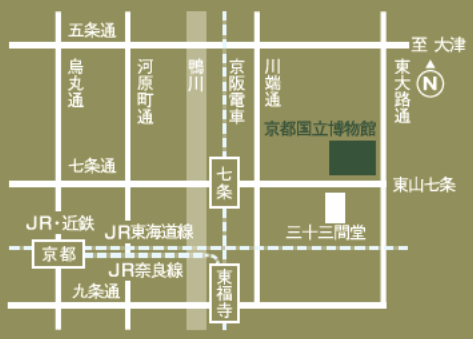
【特別展「京に生きる文化 茶の湯」】
<10月8日～12月4日>
一般1800円、大学生1200円、高校生700円
＊中学生以下、障害者とその介護者1名は無料（要証明）。
＊キャンパスメンバーズ（含教職員）は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より500円引き（一般1300円、大学生700円、高校生200円）となります。

［休館日］月曜日（月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館）、10月7日、12月26日～令和5年1月1日

アクセス

JR＝京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂前下車すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車＝近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車＝七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車＝京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

＊「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒（角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527
TEL. 075-525-2473（テレホンサービス）
ホームページ https://www.kyohaku.go.jp/

発行日 令和4年10月1日 デザイン 谷なつ子
編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社ライプアートブックス

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM